

令和4年度第3回小牧市地域包括支援センター運営協議会 議事録

日 時	令和5年2月16日(木) 13時30分～14時30分
場 所	小牧市役所 本庁舎6階 601会議室
出席者	<p>【委員】(敬称略)</p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 前川 泰宏 一般社団法人 小牧市医師会代表 佐々木 成高 小牧市歯科医師会代表 福澤 広 小牧市薬剤師会代表 櫻井 佐穂 公益社団法人 愛知県歯科衛生士会代表 里見 正弘 小牧市介護支援専門員連絡協議会代表 野口 弘美 保健センター所長 小林 静生 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表 堀江 京子 小牧市介護相談員代表</p> <p>【欠席委員】</p> <p>田中 秀治 一般社団法人 愛知県社会福祉士会代表</p> <p>【事務局】</p> <p>松永 祥司 福祉部 次長 西島 宏之 福祉部 地域包括ケア推進課長 平手 明仁 福祉部 介護保険課長 倉知 佐百合 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係長 吉嶺 涼太 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係主事 三嶋 直美 南部地域包括支援センターケアタウン小牧管理者 青木 翔太 小牧地域包括支援センターふれあい管理者 金田 泰丈 味岡地域包括支援センター岩崎あいの郷管理者 高田 かおる 篠岡地域包括支援センター小牧苑管理者 岡田 江里子 北里地域包括支援センターゆうあい管理者</p>
傍聴者	0名
配付資料	<p>次第</p> <p>資料1 令和5年度小牧市地域包括支援センター運営方針(案) 資料1-2 (新旧) 令和5年度小牧市地域包括支援センター運営方針(案) 資料2 令和5年度小牧市地域包括支援センター事業計画書(案) 資料3 第1号介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の一部委託について 資料4 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について 当日資料 小牧市地域包括支援センター運営協議会委員名簿 配席表 田中委員より 地域包括支援センター運営方針に関する意見について</p>

主な内容

<p>1. 開会 (1) あいさつ</p> <p>2. 議事 (1) 令和5年度小牧市地域包括支援センター運営方針について ・事務局より、資料1を用いて説明。</p>
--

・質疑、主な意見は以下のとおり。

○長岩会長

・田中委員からはインフォーマルサービスや社会資源の開発の視点、若年性認知症支援や入退院時連携ガイドラインへの協力について明記したらどうかと意見がありました。

○野口委員

・認知症に関する知識の普及啓発という点で、若年性認知症は高齢者ではなくわかりづらいところもあるため、支えていくことが大切であると思います。
・また、自分がしっかり出来ているという感覚を持つ上で、ピアサポートの仕組みづくりが大切であると感じたため必要かと思えます。

○櫻井委員

・コロナ禍なこともあり、地域によってはインフォーマルサービスがあっても情報が上手く発信されていないため、どのようなインフォーマルサービスがあるか情報提供をする必要があると思えます。

○里見委員

・家族介護者が交流できる場の支援は、介護離職の防止になるだけでなく、家族が介護の初期段階のところから介護に関する知識を知っていただくサポートにつながると思えました。
・困っていることや悩みを相談できる場所ができることで、地域の繋がりができていくという要素も非常に大切であると思うため、今後そういった場所が増えていくと非常に有効だと思います。

○長岩会長

・家族介護者交流会を以前から行っていた北里包括に、介護離職防止の効果について聞かせていただきたい。

○北里包括

・コロナ禍になり疎外感を感じるという地域の声もあり、SNS を通じてのやり取りやオンラインでの支援を行ってきました。
・仕事を行いながら介護する方の体験談は非常に参考になったとの声もいただいており、家族介護者交流会を通して結束力が生まれたことで介護離職の防止に繋がっていると感じています。

○福澤委員

・運営方針の変更点である属性とは具体的にはどういうものを考えていますか。また、多国籍の方も増えているので言語や国籍、風俗や習慣、宗教も考慮すると良いと思う。
・介護離職防止のための SNS での介護者交流会は、高齢で SNS が使えない方々もいるがどう考えていますか。

○事務局

・障がいを持った方と高齢者の方が同居している世帯、8050 問題といった様々な支援を必要とする方を想定しています。また、違う国籍の方がいる家庭環境もあるため、多国籍の方に対する支援も想定をしているところです。
・家族介護者交流会は SNS に限ったものではなく、実際に交流できる場も今後コロナが 2 類から 5 類に移行するに伴い、取り組むことができるかと思えます。

○長岩会長

・属性や世代を問わず相談を受け止める支援については包括が全て解決するのではなく、一度話を聞いて担当のしかるべきところに繋ぐという「受け止める支援」をしていただければと思います。

○佐々木委員

- ・こまき山体操の中に介護予防に繋がる口の体操を取り入れていただきたい。
- ・薬剤師会と医師会の協力のもと、糖尿病と歯周病の連携についてはホームページにのったため、市の方にも頭に入れていただき事業に取り組んでいただきたい。

○堀江委員

- ・認知症の方が今後増えていく中で、認知症が恐ろしいものではないことを、勉強会等を通して地域の方々に知ってもらえると良いと思います。
- ・認知症の方を施設にまで繋げていかなくとも、地域の中で自然に見守ることが出来る形に地域がなっていければと思います。

○小林委員

- ・こまき山体操のリーダーをやる方の中には体操後に口の動きを加えて行う方がいるため、社協を通してこまき山体操のリーダーの方に口の運動について働きかけると良いと思いました。
- ・オレンジカフェへの参加を各包括でPRしていただくと、認知症の方の家族の交流できる場ができるのではないかと思います。

○前川副会長

- ・運営方針の中にも記載があるワンストップやアウトリーチといった単語は、介護の方でも意味がわかるのかが気になりました。

○福澤委員

- ・包括支援センターの運営方針は一般市民に示すものですか。その場合一般市民にもわかる表現が必要であると思います。

○事務局

- ・基本的には市と委託先である包括支援センターで内容が理解できれば問題ありません。しかし、公開しているものであり市民が見る可能性はあるため、質問等があれば市で説明をさせていただきます。

○長岩会長

- ・異議もないため田中委員の意見については、表現として加えるかどうかについて事務局と私で協議したいと思います。

(2) 令和5年度小牧市地域包括支援センター事業計画書について

- ・事務局より、資料2を用いて説明。
- ・質疑、意見等なし。

(3) 第1号介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の一部委託について

- ・事務局より、資料3を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下のとおり。

○福澤委員

- ・第1号介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託基準の3にある、研修の1~6は全てを網羅するという意味ではなく、1つもしくは複数という理解でよいですか。

○事務局

- ・問題ありません。

○長岩会長

- ・包括として今回の変更で負担が増えることはないですか。

○小牧包括

- ・今回の変更で大きく業務の負担が増えることはないと考えています。

○長岩会長

- ・この変更で市には進めていただければと思います。

3. 報告

(1) 介護予防プラン作成委託業者の承認案件に係る持ち回り審議結果について

- ・事務局より、資料4を用いて報告。
- ・質疑、意見等なし。

4. 閉会